

座間という不思議な地名の原点を求めて

2023.7.11

布施克彦 記



イラスト：ひぐちかよ

探訪の担当者になり実施日が近づくと、天気予報が気になる。果たして予定通り実施できるかどうか、長期予報の段階から、頻りに実施日の天気予報をチェックして、一喜一憂する。その点今回のさがみ探訪実施日の予報に、傘マークの付くことがなく、気を揉むことがなかった。今回の座間探訪の実施日である2023年7月11日(火)は、その前の週末が梅雨の区切りとなり、以降は晴天が続くとのことだった。

それは主催者にとって嬉しいことなのだが、別の心配が生じ始めた。梅雨の終わりと同時に、本格的な夏の到来となる。実施日の前日あたりから、摂氏30度を遙かに超える猛暑日が続くという。探訪で歩くには、雨は困るが、酷暑も困る。今回探訪する座間は県央にあり、海に近い藤沢と比べても数度気温が高いだろう。

幸い、今回の探訪コースは、冷たい水の湧き出る箇所をいくつか回る。コースの多くは緑濃く木陰もあるので、それらを無理せずゆっくりと回ろうと考えながら、当日を迎えた。

座間は人口13万人のコンパクトな都市だが、東側の相模野台地と西側の相模川に沿った低地に分断されている。高台と低地の間は急な崖が南北に走り、そこにはいくつもの湧水が見られる。地下水も豊富で、座間市の上下水道の大半をまかなうという。

高台の西端にある小田急線・座間駅西口を出発した探訪は、間もなく梨の木坂を低地へと下った後、崖線に沿って北に足を向けた。そこは鈴鹿・長宿地区で、由緒ある寺社や湧水が集まっている。

鈴鹿明神社は、座間の原点とも言える古社で、隣の海老名に鎮座する有鹿神社との水利争いが起因と思われる確執の言い伝えが面白い。さらに進む道筋は、湧き水から出た清冽な水流が側溝を伝う。そこには沢ガニやホタルが見られるようで、酷暑の中を歩く参加者たちに涼の癒しを与えてくれる。

鈴鹿・長宿地区の北に位置する休息山円教寺は、日蓮処刑に使われた刀剣の制作者と、佐渡流刑前の日蓮が出会った場所だ。寺の山号は、この場所で日蓮が休息したことに因む。我々も日蓮にあやかって、しばし本堂の前の日陰で休息をとった。

十分に水分補給をして蓄えたエネルギーで、高台へと続く旧鎌倉街道を上り切り、星谷寺に立ち寄った後、座間駅に戻った。幸い熱中症になる人もなく、無事に探訪を終えることができた。今回は涼しげな湧き水を辿るコースだったが、酷暑を予測して計画した訳ではない。たまたま酷暑の中での納涼コースとなったわけだけが、7月のさがみ探訪は今後も実施予定なので、暑さ対策を考えたコースの選択が必要になると思う。(参加者31名)



鈴鹿の泉



星谷寺